

小児病棟に勤務する保育士の専門性に関するアンケート調査

－業務の重視度と自由記述の分析から－

入江慶太¹⁾*

1) 新見公立大学健康科学部健康保育学科

(2021年12月1日受付、12月22日受理)

本研究の目的は、全国の病院に勤務する病棟保育士を対象に「保育を行う上で重視すること」を調査し、重視度の低いコードに着目してその理由を考察すること(研究Ⅰ)と、研究Ⅰで用いたアンケート内の自由記述を分析し、「保育を行う上で重視すること」に追加するものがあるかを検討すること(研究Ⅱ)である。

病棟保育士315名のアンケートより、「保育を行う上で重視すること」の中から重視度の低い12コードを抽出し、これらを「他職種の優位性が高い業務」「計画立案に関する業務」「付加的業務」「専門性の発信や力量を高める業務」に分けて考察した(研究Ⅰ)。研究Ⅱでは、自由記述内の語の出現パターンの組み合わせと共起後のつながりを可視化し、「保育を行う上で重視すること」48コードと比較した結果、新たに3つの関わり(季節を感じてもらい、入院生活を楽しいものにする、少しでも快適な時間を作る)を追加する必要があることが示唆された。

(キーワード) 小児病棟、病棟保育士、保育士の専門性、共起ネットワーク

1. 緒言

国家資格である保育士は、就学前の子どもを保育する保育所等で活躍していることは周知の事実であるが、乳児院、児童養護施設、療育施設等、様々な場所においても、利用児(者)の成長や発達、生活を支えている。それらの活躍の場の一つに、病気や障害によって入院を余儀なくされた、主に15歳以下の子どもが生活する小児病棟がある。小児病棟に勤務する保育士は、通称「病棟保育士」と呼ばれており、入院中の子どもに遊びを通じた発達支援や退院を見越した生活支援を行う者として、また付き添いの保護者の良き相談役としての役割を果たしている。

一方で、保育士養成課程の中で、乳幼児の一般的な疾病や障害、それらの対処法は学ぶものの、入院児やその保護者を対象とした保育内容については教えられていない。そのため、病棟保育士は小児病棟に就職後、自らの熱意と努力で知識を習得し、仕事を覚え、チーム医療の一員として求められるものを理解していかなければならない現状がある¹⁾。また、保育所等は保育士が多数を占める専門職集団であるが、小児病棟は保育士の配置が少ないのが特徴である。東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターの調査によれば、病棟保育士の配置が1名である病院が調査対象病院全体の45.7%と最も多く、3人未満である病院が75%を占めるという結果²⁾であった。これは病棟保育士間の相談や保育技術の伝達、つまり先輩保育士や

同僚から「見て聞いて学ぶ」ことが難しい環境にあると言える。

以上のような現状を変えるためには、まず病棟保育士の専門性を明らかにすることが必要であると考えられる。それらが明らかになれば、チーム医療の中で保育士が自らの専門性を存分に発揮し、入院している子どもやその保護者に質の高い関わりを提供することができるからである。また、そこで得られる子どもや保護者の心の安定は、治療効果を高めることにつながる可能性もある。加えて、病棟保育士養成のために、保育士養成課程の中で「何を教えるべきか」を明確にすることもできよう。

そこで、本研究では、全国の病院に勤務する病棟保育士を対象に、「保育を行う上で重視すること」^{註1)}をアンケート調査し、重視度の低いコードに着目してその理由を考察する(研究Ⅰ)。病棟の中であって、保育士としての本質的な専門性が発揮されやすい業務と発揮されにくい業務があり、後者の業務は重視度が低くなると考えられる。この「発揮されにくさ」を考察することにより、病棟保育士の専門性を明らかにするための何らかの示唆を得ることができると考え、重視度が低いコードを研究対象にすることとした。また、研究Ⅰで用いたアンケート内の自由記述を分析し、研究Ⅰで示した「保育を行う上で重視すること」に追加するものがあるかを検討する(研究Ⅱ)。

*連絡先：入江慶太 新見公立大学健康科学部健康保育学科 718-8585 新見市西方1263-2

2. 方法

(1) 病棟保育士の「保育を行う上で重視すること」の選定
 選定にあたっては、これまでの文献から抽出することとした。文献検索は国立情報学研究所の「CiNii」を使用し、医療保険制度の診療報酬の中に保育士加算が初めて導入された2002年以降から2020年3月までに発行された論文を対象とした。検索式を「病棟」AND「保育」、「医療」AND「保育」とし、病棟保育士に関する59本を抽出した。これらの論文から病棟保育士の保育業務や役割、専門性と思われるものを簡条書きでのべ265コード抽出し、同じ内容のものを1コードとしてカウントして、最終的に48コードからなる表1の「保育を行う上で重視すること」の一覧表を作成した。

(2) 調査対象及び調査時期

病棟保育士が在籍する病院に関するデータベースは現在のところないので、「15歳未満専用病棟（小児病棟）」の設置が条件の小児入院管理料^{※2)}1~3で届け出を行っている全国の354病院（2019年5月時点）に対して、保育士在籍の有無を問わず調査対象とした。なお、アンケートの発送は2020年3月に行い、同年4月末を回答締め切りとした。

(3) 調査内容

アンケートによる調査内容は、「保育を行う上で重視すること」というタイトルで、表1の48コードそれぞれについて、「5：非常に重視する」から「1：あまり重視しない」までの5件法で尋ねる内容とした。また、最後に48コード以外の「保育を行う上で重視すること」に関する自由記述欄、保育の経験年数、勤務先の設置母体（国立、法人立など）、現

在の雇用形態（正規職員、臨時職員）、認定資格^{※3)}の有無について記述する欄を設けた。

(4) 分析対象および方法

回収したアンケートに関して、研究Ⅰ・Ⅱともに「認定資格なし（保育士資格のみ）」の保育士を分析対象とした。その理由として2つある。1つ目はアンケートの集計の結果、「認定資格なし（保育士資格のみ）」の病棟保育士が、全体の約8割（79.7%）という大多数を占めていたからである。2つ目は、「認定資格あり」の病棟保育士は何らかの病棟保育に関する専門職養成を受けている可能性があり、専門性に関する研究も多くなされている^{3) 4)}が、「認定資格なし（保育士資格のみ）」の病棟保育士は病棟保育に関する専門職養成を受けていない可能性が高く、本研究の射程に入る対象者だと考えたからである。

その上で、研究Ⅰでは、各48コードの平均値を算出して降順に並べ、第一四分位数以下を「重視度が低い」とみなして、分析対象とした。また、研究Ⅱでは、48コード以外の「保育を行う上で重視すること」に関する自由記述の分析について、樋口⁵⁾が開発した計量テキスト分析ができるKH coderを使用した。このソフトを用いて、テキストマイニングによる語彙頻度を算出し、語の出現パターンの組み合わせと共起後のつながりを可視化するために共起ネットワーク図を作成した。なお、共起関係の強さを図る手法として、Jaccard係数^{※4)}を採用し、係数0.2以上を分析対象とした。

(5) 倫理的配慮

郵送するアンケート用紙のフェイスシートに、協力は任意であること、施設及び個人は特定されないことなどを記

表 1. 「保育を行う上で重視すること」の一覧表

1. ストレスを発生させる遊びを行う。	27. 子どもとの距離感を考えて関わる。
2. 子どもの勉強に付き合う。	28. 子どもにとって最も良いことを第一に考える。
3. 遊びの中で子ども同士を繋げる。	29. 子どもの気持ちを代弁する。
4. 子どもの状態に合わせて遊びを工夫する。	30. 子どもを抱っこするなど、スキンシップを図る。
5. 将来の子どもの姿（生活）を見通して関わる。	31. 子どもを理解する。
6. 発達を促す遊びを行う。	32. 子どものありのままを認める。
7. リハビリテーション効果のある遊びを行う。	33. 子どもたちを平等に扱う。
8. 他の職種と子どもについての情報を共有する。	34. 一人一人の保育計画を立てる。
9. 家族からの相談に対応する。	35. 自分の保育に対する自己評価を行う。
10. 保護者の思いを他の職種に伝える。	36. 社会に向けて自らの専門性をアピールする。
11. 保護者のニーズを受け止める。	37. 後進の育成（実習指導等）に関わる。
12. 子どもの思いを他の職種に伝える。	38. 集団保育の計画を立てる。
13. ボランティアの受け入れ調整を行う。	39. 研究活動（事例検討・論文作成等）を行う。
14. 遊びの意義を他の職種に説明する。	40. 子ども一人一人のプライバシーを保護する。
15. 入院児のきょうだいを支援する。	41. 倫理綱領に基づいて行動する。
16. 保育士の立場から他の職種に意見を述べる。	42. 感染予防に注意を払う。
17. 保護者についての情報を他の職種と共有する。	43. 救急処置についての知識を持って関わる。
18. 子どもの状態に合わせて食事介助を行う。	44. 危険な行動を未然に防ぐ。
19. 子どもの状態に合わせて衣服の着脱を手伝う。	45. 安全な環境を構成する。
20. 子どもの状態に合わせて排泄介助を行う。	46. 病気についての知識を持って関わる。
21. 子どもの状態に合わせて入浴介助を行う。	子どもに ブレバレーション [※] を行う。
22. 子どもに清潔な感覚を知らせる。	47. ※ケガの処置（検査）等の前に、手順を子どもにわかりやすく説明し、心の準備をってもらうこと
23. 子どもが生活の主体になるよう支援する。	子どもに ディストラクション [※] を行う。
24. 家庭に近い環境を構成する。	48. ※ケガの処置（検査）等の際に、遊びを提供し、遊びに子どもの意識を向けさせることにより、処置（検査）等の恐怖心や苦痛を和らげる
25. 子どもに自信を与える。	
26. 子どもに安心感を与える。	

小児病棟に勤務する保育士の専門性に関するアンケート調査

表2. 各コードの重視度の平均値

コード	平均値	コード	平均値
感染予防に注意を払う。	4.76	保護者のニーズを受け止める。	3.77
子どもに安心感を与える。	4.71	病気についての知識を持って関わる。	3.76
危険な行動を未然に防ぐ。	4.69	将来の子どもの姿（生活）を見通して関わる。	3.50
安全な環境を構成する。	4.68	倫理綱領に基づいて行動する。	3.41
子どもを理解する。	4.58	遊びの中で子ども同士を繋げる。	3.40
子どもの状態に合わせて遊びを工夫する。	4.52	リハビリテーション効果のある遊びを行う。	3.33
子ども一人一人のプライバシーを保護する。	4.49	子どもの状態に合わせて排泄介助を行う。	3.31
他の職種と子どもについての情報を共有する。	4.39	自分の保育に対する自己評価を行う。	3.27
子どもたちを平等に扱う。	4.38	保育士の立場から他の職種に意見を述べる。	3.26
子どもにとって最も良いことを第一に考える。	4.37	子どもの状態に合わせて衣服の着脱を手伝う。	3.26
子どもを抱っこするなど、スキンシップを図る。	4.34	遊びの意義を他の職種に説明する。	3.21
子どもの気持ちを代弁する。	4.25	家庭に近い環境を構成する。	3.17
子どものありのままを認める。	4.24	①子どもにディストラクションを行う。	2.93
子どもの思いを他の職種に伝える。	4.19	②入院児のきょうだいを支援する。	2.82
保護者の思いを他の職種に伝える。	4.16	③一人一人の保育計画を立てる。	2.79
保護者についての情報を他の職種と共有する。	4.13	④救急処置についての知識を持って関わる。	2.78
発達を促す遊びを行う。	4.12	⑤子どもにプレパレーションを行う。	2.69
子どもが生活の主体になるよう支援する。	4.07	⑥子どもの勉強に付き合う。	2.63
子どもとの距離感を考えて関わる。	4.03	⑦社会に向けて自らの専門性をアピールする。	2.56
家族からの相談に対応する。	4.00	⑧集団保育の計画を立てる。	2.49
子どもに清潔な感覚を知らせる。	4.00	⑨後進の育成（実習指導等）に関わる。	2.41
子どもに自信を与える。	3.97	⑩子どもの状態に合わせて入浴介助を行う。	2.40
ストレスを発散させる遊びを行う。	3.89	⑪ボランティアの受け入れ調整を行う。	2.17
子どもの状態に合わせて食事介助を行う。	3.81	⑫研究活動（事例検討・論文作成等）を行う。	1.96

※第一四分位数以下は、太線以下の12コード。

載し、アンケートに協力する際には、アンケート冒頭にある同意チェックボックスにマークしてから回答するよう依頼した。

なお、本アンケート調査は川崎医療福祉大学大学倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号18-120）。

3. 結果

アンケートを発送した354病院の内、回答のあった病院は137病院（回収率38.7%）で、計315名分のアンケートが回収された。なお、回収されたアンケートは、研究協力の同意欄に全てチェックが入っていた。315名分のうち、「認定資格なし（保育士資格のみ）」245名の属性は、平均経年数11.16年（SD = 8.71）、設置母体（国立44名・都道府県立29名・市町村立34名・法人立120名・その他2名・不明16名）、雇用形態（正規職員131名・臨時職員114名）であった。

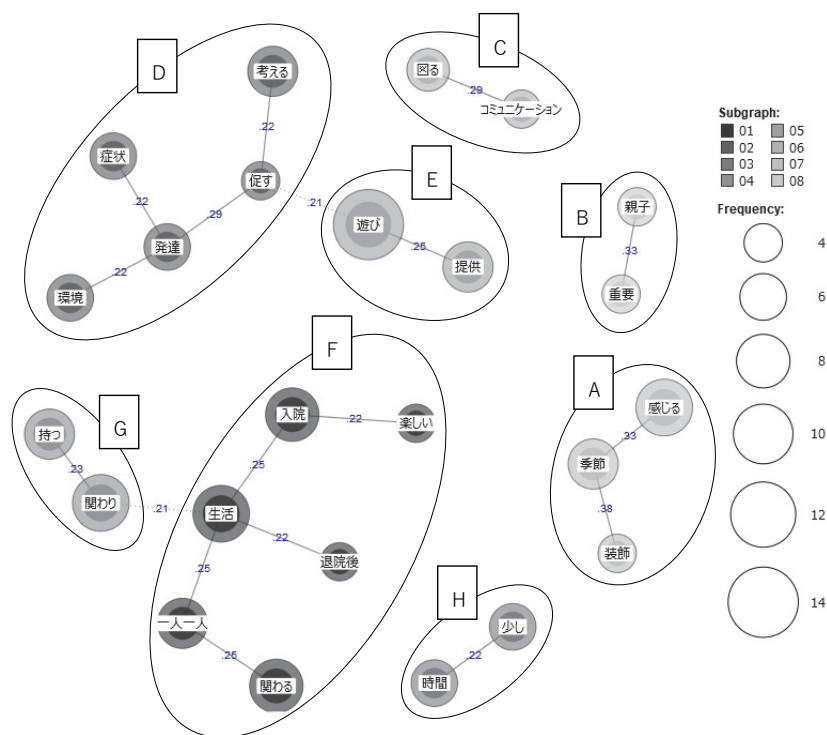
研究Ⅰについて、各48コードの重視度の平均値を降順に配列した一覧を表2に示す。第一四分位数以下のコードは12コードあり、いずれも3を下回る平均値であった。具体的には、「①子どもにディストラクションを行う。」「②入院児のきょうだいを支援する。」と続き、最も重視度が低かったコードは「⑫研究活動（事例検討・論文作成等）を行う。」であった。

次に、研究Ⅱについて、自由記述の語彙を概観し、本研究では出現回数4回以上の語彙を抽出することとした。その抽出語リストを表3に示す。全体で40語あり、最も多く用

いられていた単語は「子ども」で、「行う」「遊び」「保護者」「保育」と続いた。次に、図1のとおり、先述の40語を用いた自由記述の共起ネットワークを可視化し、Subgraph（関連性の強い語ごとに色分けされたもの）からおおむね8つの共起関係（A「季節・装飾・感じる」、B「親子・重要」、C「コミュニケーション・図る」、D「発達・症状・環境・促す・考える」、E「遊び・提供」、F「生活・入院・楽しい・退院後・一人一人・関わる」、G「関わり・持つ」、H「少し・時間」）が描かれていると判断した。

表3. 出現回数4回以上の抽出語リスト

単語	出現回数	単語	出現回数
子ども	46	時間	6
行う	15	少し	6
遊び	14	症状	6
保護者	12	発達	6
保育	10	支援	5
感じる	9	図る	5
関わり	9	遊ぶ	5
合わせる	9	コミュニケーション	4
生活	9	楽しい	4
他職種	9	気分転換	4
家族	8	計画	4
関わる	8	重要	4
入院	8	情報共有	4
一人一人	7	心掛ける	4
活動	7	親子	4
季節	7	装飾	4
考える	7	促す	4
持つ	7	退院後	4
提供	7	不安	4
環境	6	聞く	4



※円の大きさ (Frequency) は出現数を、線上の数値は Jaccard 係数を示す。なお、線の長さは意味を持たない。
 ※図中の楕円は「Frequency」ではなく、筆者が息記したものである。

図 1. 自由記述の共起ネットワーク

4. 考察

(1) 研究 I

研究 I の目的は、「保育を行う上で重視すること」をアンケート調査し、重視度の低いコードに着目してその理由を考察することである。表2から抽出された12コードを概観し、「他職種の優位性が高い業務」「計画立案に関する業務」「付加的業務」「専門性の発信や力量を高める業務」の4種別に分け、種別ごとに考察を試みる。

一つ目の「他職種の優位性が高い業務」は、表2の「①子どもにディストラクションを行う。」「④救急処置についての知識を持って関わる。」「⑤子どもにプレパレーションを行う。」「⑥子どもの勉強に向き合う。」「⑩子どもの状態に合わせて入浴介助を行う。」「⑪ボランティアの受け入れ調整を行う。」の6コードで構成される。①や④、⑤、⑩^(注5)に関しては、医師や看護師といった医療従事者の業務との重なりがあり、明確な分担業務としているのか、協力業務としているのかは、病院により異なる可能性がある。そもそも、「病院」といっても病院形態（総合病院・小児専門病院など）や診療科（内科系・外科系・循環器系・診療科系など）といった違いがあり、病棟保育士が所属する病院や部署によって、業務の重視度が変化することが考えられる。⑥については院内学級や養護学校の有無や教諭との連携レベルの違い、⑪については事務部が対応す

る病院もあり、他職種が優先的に関わることで重視度の低さの要因になっていると考えられる。

二つ目の「計画立案に関する業務」には、「③一人一人の保育計画を立てる。」「⑧集団保育の計画を立てる。」の2コードが該当する。入院している子どもの様態は、疾病の状況や検査・手術の前後の状況で刻々と変化する。様態の変化が緩やかな慢性期の入院児であれば計画は比較的立案しやすいが、急性期であれば立案も難しくなると考えられる。また、例えば、手術までの待機時間の延長や急な検査の要請があれば、それを優先しなければならないこともあり、見通しを持った保育の計画が立てにくい面も影響していると思われる。

三つ目の「付加的業務」は、「②入院児のきょうだいを支援する。」「⑨後進の育成（実習指導等）に関わる。」の2コードで構成される。これらの業務は「入院児やその保護者のケアを行う」という主要業務とは異なり、どちらかという付加的な要素を持つ業務である。②については、例えば、面会制限により病棟内に入れないうきょうだいの支援⁶⁾や夏祭り等の行事を開催して家で待つきょうだいの頑張りをねぎらう支援⁷⁾などがあるが、いずれも病棟保育士が複数いる環境の中での実施である。したがって、前述の同僚の保育士数が少ない環境であれば、業務として後回しになる可能性が示唆される。また、⑨については、独自科目として病院における実習に取り組んでいる保育士養成校

の数がそもそも少ない上に、その中で「病棟保育士に指導を受ける実習」となるとさらに少なくなると考えられる。以上のような実習受け入れ数の少なさが、重視度の低さに影響していると考えられる。

四つ目の「専門性の発信や力量を高める業務」には、「⑦社会に向けて自らの専門性をアピールする。」「⑩研究活動（事例検討・論文作成等）を行う。」の2コードが該当する。チーム医療の観点からすると、医師や看護師をはじめとした他職種集団の一員として病棟保育士は所属している。これは「病棟保育士はどんな役割を果たす存在なのか」が常に問われていることを意味する。その一方で、前掲の東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターの調査⁸⁾によれば、所属部署が「看護部である」と回答した病棟保育士が全体の66%に上ることが明らかにされており、約3人に2人が病棟保育士として独立していないこととなる。先述の配置人数の少なさによる業務過多の影響と相まって、自らの専門性を高める研究活動や発信に時間をかけることができない、あるいはその立場にない現状があると思われる。

(2) 研究Ⅱ

研究Ⅱの目的は、アンケート内の自由記述を分析し、研究Ⅰで示した病棟保育士の専門性に追加するものがあるかを検討することである。分析により描かれた表3の頻出語及び図1の8つの共起関係は、全て保育士の専門性に関連するものであった。表1の一覧表と8つの共起関係を比較すると、今回の自由記述から三点の追加を検討する必要があると考えられる。

まず、一点目は、図1のAの共起関係「季節・装飾・感じる」である。これは「その月の季節を感じられるような装飾をして病棟を明るくする」や「季節感を感じられる遊び（製作）などを取り入れる」などの自由記述から構成されており、表1の一覧表に該当するコードは存在しなかった。入院すれば外出の機会は制限され、さらに入院が長期に及べば季節の移り変わりを感じる機会も減少することが考えられる。四季折々の環境の変化に触れる機会を保障する、という病棟保育士が重要視する業務であると考え、「季節を感じるができる装飾を行う」といったコードが必要になると考える。

二点目は、図1の共起関係F内にある「入院・楽しい」の語のつながりである。これは「保護者を巻き込んで遊ぶようにし、入院生活が楽しいものであったと思ってもらう」や「短期入院の子どもが多いので、気分転換を図れるような時間を作れるようにし、少しでも楽しかったと思えるようにする」などの自由記述から構成されており、退院後に入院生活を振り返った時に、その経験をポジティブなものとして捉えることができるようにする病棟保育士の関わりであると考えられる。類似のコードとして、表1の「5.将来の子どもの姿（生活）を見通して関わる。」があるもの

の、これは病棟保育士が入院児に関わることを通して、入院児が退院後の日常生活に困らないようにする、という意味合いが強いため、表1の「5」とは異なる「入院生活を楽しい経験だったと捉えることができるように関わる」というコードを追加したい。

三点目は、図1の共起関係Hの「少し・時間」である。これは「入院中、少しの時間でも笑顔があるようにする」「親子ともに少しでも快適な時間を過ごしてもらうことを考えて対応する」などの回答により構成されており、病棟保育士の支援により病院で過ごす時間が少しでも快適なものになるような関わりを意味すると考えられる。入院児やその保護者は日々病気に向き合い、時には痛みや不安に対処していかなければならない。そうしたストレスを限りなくゼロに近づける病棟保育士の関わりであると考えられるため、「入院生活の中で少しでも快適な時間が過ごせるように関わる」を新たなコードとして追加する必要があるだろう。

5. 結語

本研究は病棟保育士の業務に着目し、重視度が低いコードの理由を明らかにし、専門職性の高いコードを新たに見出すことができた。病棟保育士は、入院児の入院理由に直接的な関与はできない。しかし、治療や検査の効果を高める間接的な関わり、子ども本来の発達促進の保障、その保護者の精神的なケアなどを行うという意味では、非常に専門職性の高い、必要な人材であると言える。さらに病棟保育士の社会的認知が広がっていくためには、実践者である病棟保育士を中心として、病棟保育（士）を研究対象とし、研究的視点に立った実践や事例の積み上げが求められていると考える。

今後は、研究Ⅰで考察した12コードを含む表1の48コードと研究Ⅱで明らかにされた3コードについて質的に精査し、病棟保育士の専門性を特定していきたい。そして、得られた結果を基に、病棟保育士の研修プログラムや養成カリキュラムの開発を進めていくことを課題としたい。

文献

- 1) 入江慶太：医療を要する子どもの保育を担う保育者の養成－他職種との専門性の比較から－。日本保育学会第73回大会発表論文集，1073-1074，2020。
- 2) 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター：速報版病棟保育に関する全国調査。6。
<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/cms/?wpdmdl=6650/>
(情報取得日2021/11/30)
- 3) 土屋明子，吾田富士子，碓氷ゆかり，杉山全美，吉田弥生：医療保育専門士の業務実態－活動フィールドに

よって異なる専門性の解析のために。医療と保育, 17, 16-26, 2019.

- 4) 上出香波, 齋藤政子: 小児病棟における保育士の専門性に関する検討-医療保育専門士への面接調査を通して-。保育学研究, 52 (1), 105-115, 2014.
- 5) 樋口耕一: 社会調査のための計量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して-, 初版, ナカニシヤ出版, 京都, 2014.
- 6) 京極恵, 千田晶子: 小児病棟での保育士の役割と活動の実際について。近畿大学臨床心理センター紀要, 3, 177-189, 2010.
- 7) 勝浦真仁, 松山有美, 西村美佳, 棚瀬佳見: 病気を抱える子どものきょうだいを夏祭りイベントに招待する試み-当事者とボランティアへのアンケート調査から検討する視点の違い-。桜花学園大学保育学部研究紀要, 19, 71-85, 2019.
- 8) 前掲2)

注

注1) 本研究で用いたアンケートでは、「保育の専門性」ではなく、「保育を行う上で重視すること」とした。これは、プレテストの中で「『保育の専門性』と聞かれると答えにくい。」との意見を踏まえたためである。

注2) 小児が入院する病床を持ち、小児科常勤医の数や看護体制等により5段階の施設基準が設けられている。中でも、「15歳未満専用病棟(小児病棟)」の設置が条件の「小児入院管理料1~3」で届け出を行っている病院に病棟保育士が勤務している可能性があると考え、本研究の調査対象とした。

注3) 「保育士」といった国家資格ではなく、学会や協会が認定する資格のことであり、本件研究では引用文献2)により、医療保育専門士・HPS(Hospital Play Specialist)・子ども療養支援士・CLS(Child Life Specialist)の4つの認定資格を想定している。

注4) 2語のどちらかが含まれる文章を数え、2語がともに含まれる文章の割合を算出して得られる係数であり、係数は0~1の間を取る。ただし、相関係数の絶対値の解釈のような明確な基準はなく、KH coderでは「解釈可能な共起関係が見られる係数を採用する」方向性が示されている。

注5) 例えば、気管挿管や気管切開されている乳幼児の入浴介助の場合、看護師業務になることが多い。このように、入院時の入浴に関しては医療的な配慮の必要性が高いため、「⑩子どもの状態に合わせて入浴介助を行う。」を医療従事者との業務の重なりがあると考えた。

付記

本研究は、JSPS科研費JP18K02512の助成を受けたものである。